
空色のバス

夏目真七

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空色のバス

【Nコード】

N9412M

【作者名】

夏目真七

【あらすじ】

謎の空色のバスの行き先とは・・・？

空色のバスが目の前に止まったら、なんにも持たずにそれに乗ろう。切符もお金もいらぬ水色のバスは、どこからともなく走ってくる。そして目の前に止まったかと思ったら、シューっという音を立てて扉を開けるのだ。

夏の日の炎天下、一際目立つ鮮やかなバスがコンクリート道路を走っていた。

夕陽が沈む頃に川辺を歩いていると、川を繋ぐ高速道路と歩道がある橋の上に黒い人ばかりが見えた。

皆黒や灰色のロングコートや帽子で身体を覆い、どこか旅の列車を待っているような雰囲気、僕は気になって近づいてみる。

二列縦隊で10列ほどの行列は、皆顔が見えず影のように佇んでいる。

一番後ろに並んでいる、大きな鞆を持った紳士に声をかけた。

「なにをしているんですか？」

「バスを待っているんだよ」

「バス・・・？」

「あの夕陽が沈む直前が、バスの停車時刻なんだ」

そう言つて、遠くに見える黒いシルエットの上に浮かぶオレンジを

指差した。

溢れんばかりの夕陽が空や雲、街、水面、僕達を、惜しみなく照らしている。

こんなに綺麗な夕陽を見たことが無かった。

「おじさんはどこに行くんですか？」

「遠い場所さ。あの夕陽を目指す人もいれば、月の花が咲く場所にも行ける。」

世界の果てに行くのさ」

（後書き）

解説しますと（知らないかも知ですが）、
黒い人だかりは葬列です。

つまりまあ、みんな死人で、バスが魂をあの世へ運ぶ役割ということ
です。

この少年は自分が死んだことに気づかないまま、この後バスに乗っ
て自分の行くべきところへ行くわけですね。（たぶん）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9412m/>

空色のバス

2010年10月13日04時33分発行